

令和7年度の学校評価（反省と課題）

<p>前年度の重点目標</p>	<p>①社会の動向を視野に入れ、それに対応した教育活動を展開する。 ・普通コース及び国際理解コースの教育内容の充実に努め、社会の変化に適切に対応する能力を育成する。 ・地域の人的・物的資源等を活用し、キャリア教育の充実に図り、各々の職業観を養う。 ・ICTを活用した授業実践を研究し、生徒の個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に努める。 ・持続可能な開発目標であるSDGsの視点を踏まえた学びをより一層推進する。 ・学校図書館の活用を通して、主体的、意欲的な読書活動の充実に努める。</p> <p>②行動力と思いやりを備えた、地域を支えるリーダーとなる生徒を育てる。 ・学校行事、部活動やボランティア活動への積極的な参加を促し、生徒自身が社会性、協調性、粘り強さを持ち、主体的に行動できるようにする。 ・「主体的・対話的で深い学び」「協働的な学び」の視点からの授業改善を行い、生徒たちが自ら考え、自ら行動する力を育む。 ・実践的な防災・減災教育に取り組み、地域の防災に貢献できる防災リーダーの育成に努める。</p> <p>③清潔で落ち着いた教育環境、安全・安心な学習支援体制を整備し、規律を守る、品位・品格ある、心身ともに健全な生徒を育てる。 ・自他の生命尊重の理念のもと、交通安全意識と交通マナーの向上に努めるとともに、他の人々や地域の安全に貢献できる生徒を育てる。 ・教育相談の充実に努めるとともに、スクールカウンセラーや関係機関との連携を図り、組織的かつ迅速に適切な指導及び支援を行う。 ・日常の清掃活動を通して、衛生管理・環境整備についての意識を高揚する。</p> <p>④効率的・効果的な業務遂行の機運を醸成し、教職員の多忙化解消を図る。 ・校務支援システムの活用を推進し、情報共有に係る手段等のペーパーレス化を更に進めるとともに、ICTを活用することで校務の効率化をより強化する。 ・生徒の主体性を生かした学習指導、運営方針を遵守した部活動指導を行うなど、全ての教職員がタイムマネジメントを意識した業務遂行を心がける。</p> <p>⑤時間外労働の上限の目安時間を次のように定める。 ・1か月の在校等時間について、時間外労働45時間以内とする。 ・1年間の在校等時間について、時間外労働360時間以内とする。</p>		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>広報活動 （総務部）</p>	<p>PTA活動内容の見直しと取捨選択</p>	<p>・PTA常任理事会において活動内容を検討する。 ・広報ひがしの内容、文章量を見直す。</p>	<p>・年度当初からPTA総会までの常任理事会・理事会の実施内容について、来年度に向けての改善事項を確認した。 ・広報「ひがし」、年報「ひがし」内容をややスリム化しつつ、広報活動としての十分な情報提供を行った。さらに見やすい紙面作りを心がけていきたい。</p>
<p>学習指導 （教務部）</p>	<p>「総合的な探究の時間」の検討</p>	<p>・学年ごとの計画を、各学年の情報共有しつつ検証する。</p>	<p>・「総合的な探究の時間」の担当者打合せ会を立ち上げ、学年の反省をすることで改善を重ねるとともに、他学年の実情を把握することで次年度の授業計画も進めている。</p>
<p>読書指導 （教務部 図書担当）</p>	<p>学校図書館を通じた、主体的、意欲的な読書活動の充実</p>	<p>・さまざまな興味・関心の探求、課題解決を図ることができる図書づくり。 ・QOLを高めるための読書活動を促す。</p>	<p>・図書通信では委員たちが自分たちでテーマを決め、本の紹介を行った。また、読書会や教養講座などでも主体的に運営を行い、ポスターを作ったり校内放送で参加を促したりした。当日も司会進行をしたり感想を言ったり書いたりした。自分たちで考え、工夫し、積極的に活動することができた。 ・七夕や季節に応じたコーナー、入り口に映画の宣伝を貼った。多くの生徒たちが図書館に足を運び、図書館を身近に感じてくれる機会になったと考える。 ・昨年度に比べると多くの授業で図書室が積極的に利用され、蔵書なども有効に活用されたと考える。来年度も継続的に利用を促していきたい。 ・情報が古くなってきている資料もあるので、精選したい。</p>
<p>研修 （研修部）</p>	<p>ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを促す授業の推進とその実践 国際理解コースの活性化のための方策の研究</p>	<p>・校外の公開授業や校内研修等を通してICT機器の効果的な活用方法を研究する。またその活用による授業の意義を研究する。 ・国際理解コースの行事内容を検討する。国際理解コースだよりやホームページなどを活用し、魅力を外部に発信する。</p>	<p>・あいちラーニング推進事業に伴い、昨年度に引き続き、校内校外を対象とした講演会や公開授業を開催し、ICT活用の意義や方法について学んだことを生かし各教員がICTを活用した授業を行った。ソフト面・ハード面の整備も引き続き行い、多くの授業や校務でICTを活用しやすい環境を整えた。 ・国際理解コースの新たな行事として昨年度から「JICA訪問」を実施し、従来からのイングリッシュキャンプとともに、興味を引き出す工夫をした。今後の課題としてホームページ等を十分に活用し、従来より作成している「国理だより」とともに広報活動にも努めたい。</p>

生徒指導 (生徒指導部 生活担当)	交通事故の防止と、 より一段高い交通安全意識の啓発	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全指導の実施 危険個所での指導の徹底 交通安全講話等によつての啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 学期初めを中心に学校周辺を重点として、立番指導を実施した。 交通安全講話や集会において、交通安全意識を高めた。 交通マナーなど地域住民からのご意見には早急に改善を図った。また、登校時、危険個所と思われる場所に職員が立ち番指導を行った。
生徒指導 (いじめ対策 委員会)	いじめの未然防止と 早期発見	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケート、相談アンケート、学期始めの担任による面接等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期始めの担任面接で、悩み事などの相談に応じた。学校生活アンケートを実施し、いじめの状況把握に努めた。 校外学習や修学旅行では、良好な人間関係を作ることができる行事になるように活動内容を工夫した。 人権講話等で人権の大切さを説いた。
生徒会活動 (生徒指導部 特活担当)	生徒会行事の内容の 検討と生徒会活動の 活性化	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会行事の内容の検討と綿密な計画 生徒会活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 三年ぶりに本校のみでの文化祭開催となり、スケジュールの見直しを行った。来年度に向けて負担の少なくなるよう今後協議していきたい。 生徒に対して積極的にアンケートを行い、文化祭の規約を一部改訂した。その結果文化祭のクラス展示の幅が広がった。
進路指導 (進路指導 部)	学年ごとの進路指導 の体系化と生徒の進 路目標の実現	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、時期に応じた進路指導を、学年団と進路部で連携して体系的に行う。 生徒の進路目標実現に向けた主体的取組を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年の協力を得ながら様々なキャリア教育を充実させることができた。今後は、生徒からの声も反映させ、生徒がより主体的に行動できるキャリア教育の実現に努めたい。 進路資料室の整理を行い資料を見やすくしたことで、赤本の貸し出しやコピー機の利用など、進路資料室を活用する生徒が増えた。今後も生徒がそれぞれの進路実現に向け主体的に行動できるように手助けをしていきたい。
保健活動 教育相談 (保健環 境部)	こころとからだの健 康保持増進	<ul style="list-style-type: none"> 自ら疾病やけがの予防につながる行動選択ができる生徒を育成する。 健康教育講座を各学年で計画し実施する。 睡眠の重要性を理解し、心身の健康を意識したセルフコントロール力を育成する。 災害時や緊急時の対応力と実践力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 熱中症対策として、部活動代表者に救急法指導、全校生徒に生活習慣・運動習慣セルフチェックを行い予防対策に力を入れた。水分摂取状況に課題が残るため、今後重点的に啓蒙していきたい。 3年生対象の産婦人科医による講話は、関心を持って参加し、ライフスキルとしての性教育を学ぶことができた。1年生は睡眠の重要性について学んだ。メンタルヘルスにもつながる、健康の基盤である睡眠について振り返る機会となった。2年生は3月に「がん」について学ぶ予定。心身の健康増進のためにいずれも大切な内容のため、継続していきたい。 「こころと体のセルフチェック」で、ストレスの原因について振り返る機会を設けた。また、実態把握にも活用できるため、次年度も継続していきたい。 防災に関しては、保健委員を中心に、文化祭企画、防災講話等を通して、緊急時の対応力を向上させる取組を行った。知識の定着を図るために継続的に取り組んでいきたい。
1年学年会	東高生としての自覚 を持たせ、学習・部 活動・行事に積極的 に取り組む姿勢の育 成	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 学習習慣の確立 部活動や行事への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を確立している生徒がほとんどであるが、登校時間ギリギリに来る生徒も増えつつある。朝昇降口で挨拶をしながら呼びかけをするなど、丁寧な指導をした。 多くの生徒が積極的に部活動に参加し、学習との両立を果たした。メリハリをつけて取り組めるよう、日々の学習記録をつけて学習時間の振り返りをし、生活をより良く改善するよう促した。 進路目標について、まだ明確になってない生徒が多い。引き続き総合的な探究の時間や進路行事を通して、キャリア教育につながる指導を多く行い、進路意識を高めさせたい。 行事では主体的な姿が随所に見られ、生徒同士で積極的に意見交換しながら協力してクラス企画を創り上げた。来年度も、主体性を発揮できる環境を整えたい。

2年学年会	<p>明るく落ち着いた規律ある高校生活の充実 計画的な学習と学力の定着 将来の目標を見据えた進路意識の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動、学校行事における中核学年としての自覚ある行動 ・協調性、社会性の育成 ・予習→授業→復習のサイクルの定着 ・家庭学習の習慣化 ・具体的な進路目標の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校祭や修学旅行、部活動等に積極的に参加した生徒が多かった。修学旅行では、事前指導の段階から仲間と協力しながら班別研修の計画を立てることができた。生徒一人一人の学びの充実を図りながら、常に学年全体の動きも意識して行動することで、社会性・協調性を大きく向上させることができた。当日は悪天候に見舞われたが、生徒にとって良い学びの機会とすることができた。また、部活動においては、各部の中心として活躍し東海大会や全国大会に出場するなど優秀な成績を収めた生徒もいた。 ・ほとんどの生徒が落ち着いた学校生活を送ることができた。学習における課題の提出とスマートフォンの利用については、今後も継続的な指導が必要である。 ・予習→授業→復習の学習サイクルの定着に向けて、学年集会や授業等における全体に対する声かけと、個別での面談を実施した。1年次に比べ、学習習慣の定着率はだんだんと高くなってきている。受験を見据えた適切な声かけ、課題の内容と量等、学年で検討を続けていきたい。 ・「総合的な探究の時間」における学び、担任による面談、進路講演会等を通し、進路意識を高めさせることができた。今後も教育活動の様々な場面をきっかけとして、各自の大学志望理由が明確になるよう指導していきたい。
3年学年会	<p>進路目標達成への継続した努力 たくましく生きる生徒の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けた学習指導と学習支援の充実 ・面接指導と時期に応じた生徒への適切な声掛け ・主体的な行動を促す機会の設置 ・社会に出るための人間性の育成 ・強い心を育む 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業だけでなく平常課外や土曜学習会を充実させた。多くの生徒が参加し、受験に向けて良い学習環境を作ることができた。 ・学年全体に対する時期に応じたきめ細やかな指導、担任による面接指導等、志望校合格への意識を高めるために個々に応じた支援を実施した。 ・文化祭や体育大会などの行事で、各クラスが意欲的かつ主体的に取り組むことがきるよう支援した。 ・学年集会や日々の継続的な指導を通して、挨拶や礼儀、他者へ配慮等ができる集団となった。また、多くの生徒が受験にむけた学習を通して、苦境に負けない強い心を育み、人間性も向上させた。
職員の健康保持 (衛生委員会)	<p>勤務時間の適正な管理 教職員の健康障害防止とメンタルヘルス保持</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の精選、適正な分担による多忙化解消 ・タイムマネジメントを意識した業務遂行 ・愛知県公立学校の教育職員の適切な管理等に基づいた在校時間の管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌において業務分担・業務精選が進められた。採点システムでの答案返却のデジタル化を推進したり、行事や研修の在り方を見直し、教職員の業務の軽減に取り組んだ。 ・ほとんどの教職員が19時30分の施錠時間を見据えた働き方をしている。今後もタイムマネジメントの意識づけにつながる声掛けを継続したい。 ・在校時間等の状況記録から、月ごとの時間外勤務の平均は約33時間で、全体としては上限45時間を超過しない状況にあった。一方で、分掌業務や部活動指導のため、時に月80時間を超過する教職員がいるなど、業務の平準化を図る方策が必要である。